

予算決算委員会建設分科会記録

1 日 時 令和3年10月13日（水曜日）

| | |
|-----|----------|
| 開 会 | 午前 9時55分 |
| 休 憩 | 午前11時12分 |
| 再 開 | 午前11時16分 |
| 休 憩 | 午前11時38分 |
| 再 開 | 午後 1時08分 |
| 閉 会 | 午後 1時33分 |

2 場 所 第4委員会室

3 出席委員 9人

| | |
|--------|---------|
| 分科会長 | 竹 田 勝 |
| 分科会副会長 | 金 谷 幸 則 |
| 委 員 | 柏 佳 枝 |
| // | 高 原 讓 |
| // | 豊 岡 達 郎 |
| // | 岡 部 享 |
| // | 谷 口 寿 一 |
| // | 横 野 昭 |
| // | 金 厚 有 豊 |

4 欠席委員 0人

5 説明のため出席した者

【消防局】

| | |
|------------------|-------|
| 局長 | 相澤 充則 |
| 局次長 | 河部 勝巳 |
| 総務課長 | 石井 誠 |
| 予防課長 | 浦山 信之 |
| 警防課長 | 松井 孝博 |
| 通信指令課長 | 井原 毅 |
| 総務課主幹（総務企画・調整担当） | 嘉戸 智人 |

【上下水道局】

| | |
|---------------------|--------|
| 局長 | 山崎 耕一 |
| 局次長 | 山森 豊 |
| 局次長（技術担当） | 深山 隆 |
| 参事（西上下水道サービスセンター所長） | 渡辺 政司 |
| 経営企画課長 | 石金 俊介 |
| 契約出納課長 | 中島 志津子 |
| 料金課長 | 泉野 敬之 |
| 給排水サービス課長 | 五十嵐 健治 |
| 水道課長 | 山崎 明彦 |
| 下水道課長 | 五十嵐 進 |
| 上下水道施設管理センター所長 | 森岡 俊雄 |
| 東上下水道サービスセンター所長 | 田辺 茂樹 |
| 流杉浄水場長 | 大場 角栄 |
| 浜黒崎浄化センター場長 | 中橋 亨 |
| 経営企画課主幹（調整担当） | 山口 晋一郎 |

【建設部】

| | |
|---------------|-------|
| 部長 | 舟田 安浩 |
| 理事（土木事務所長） | 山元 政彦 |
| 部次長 | 高柳 誠 |
| 部次長（技術担当） | 酒井 正道 |
| 参事（道路河川管理担当） | 増山 和弘 |
| 参事（市営住宅等再編担当） | 片山 建 |
| 参事（建設政策課長） | 高尾 輝彦 |
| 参事（土木事務所建設課長） | 牧 雅浩 |

| | |
|---------------|-------|
| 道路整備課長 | 奥田 孝治 |
| 道路河川管理課長 | 帳山 誠志 |
| 河川整備課長 | 経澤 陽一 |
| 道路構造保全対策課長 | 野上 一成 |
| 公園緑地課長 | 澤野 重雄 |
| 防災対策課長 | 村田 友康 |
| 市営住宅課長 | 山崎 悟 |
| 営繕課長 | 生田 朋道 |
| 土木事務所管理課長 | 山下 達也 |
| 建設政策課主幹（調整担当） | 中川 哲也 |

【活力都市創造部】

| | |
|-----------------|-------|
| 部長 | 中村 雅也 |
| 部次長 | 中村 敏之 |
| 部次長（技術担当） | 狩野 雅人 |
| 参事（都市計画課長） | 村井 真哉 |
| 参事（都市再生整備課長） | 高森 隆 |
| 活力都市推進課長 | 高田 興真 |
| 交通政策課長 | 野村 知範 |
| 建築指導課長 | 佐藤 英子 |
| 富山駅周辺地区整備課長 | 金山 英樹 |
| 路面電車推進課長 | 高田 秀昭 |
| 中心市街地活性化推進課長 | 柵 伸治 |
| 居住対策課長 | 山崎 哲志 |
| 活力都市推進課主幹（調整担当） | 谷島 洋 |

6 職務のために出席した者

【議会事務局】

| | |
|---------------|-------|
| 議事調査課長代理 | 中山 崇 |
| 議事調査課主査 | 熊谷 法子 |
| 議事調査課会計年度任用職員 | 佐伯 瞳 |

7 会議の概要

分科会長 ただいまから予算決算委員会建設分科会を開会いたします。

 審査に先立ち、分科会記録の署名委員に、横野委員、金厚委員を指名いたします。

 当分科会に送付されました各案件の審査については、各部局単位とし、お手元に配付してあります分科会審査順序のとおり行う予定であります。

 なお、委員各位に申し上げますが、質疑については、令和2年度決算に関係あるものでお願いいたします。

 また、委員及び当局の皆さんに申し上げますが、質疑・答弁及び説明については、簡潔・明瞭に行っていただきますようお願いいたします。

 なお、マスクで声が聞き取りにくいことから、発言する際には、はっきりと大きな声でお願いいたします。

 これより、消防局所管分の決算審査を行います。

 認定第1号 令和2年度富山市一般会計歳入歳出決算中、消防局所管分

 を議題といたします。

 これより、当局の説明を求めます。

消防局長 〔挨拶〕

消防局次長 〔主要施策成果報告書及び委員会資料により
説明〕

分科会長 これより、質疑に入ります。
質疑はありませんか。

豊岡委員 分団に関してお伺いします。主要施策成果報告書263ページを見ていると、去年は器具置場を1か所だけ改築しています。毎年2か所ずつ工事するというふうに計画されていたと思うのですけれども、計画より少なくなった理由と、あと、今後どうしていくのか教えていただきたいと思います。

総務課長 今ほど委員がおっしゃったように、消防局では、基本的に例年2か所の工事と2か所の実施設計を進めてきたところでございます。それに対しまして、令和元年度でございますが、各部局の事業を全体で精査している市の内部組織である事業再点検チームから消防局に対し、分団器具置場の建設費用が非常に高騰しているとの指摘がありました。例えば近年の予算ベースで言いますと、現在1か所当たりの建設費が4,500万円ほど

になっておりまして、年々上昇してきている
ということでございます。

そのことから、事業再点検チームのほうから
一度事業を見直すといえますか—具体的に言
いますと、今までは設計して施工するという
通常のやり方を取っていたのですが、プレハ
ブメーカーによる方式を取ってみてはどうか
という御指摘があったところでございます。
単純に言いますと、プレハブを建てたらどう
かということでございます。

令和2年度に建設等を一旦縮小といえますか
延伸した中で検討した結果、まず、プレハブ
を採用したとしても金額的には今までのやり
方とあまり変わりませんでした。

さらに、一番重要だったのが、プレハブメー
カーというのは一般的に大手メーカーでござ
いまして、富山県内、市内にはそういったメ
ーカーの本拠地がないのです。そうなります
と、本市の建設工事は事業者育成の観点から
市内の業者を積極的に使うという基本的な考
え方から少しずれてしまうということがござ
いまして、検討した結果、従来どおりのま
までいこうということになったところござ
います。

いずれにしましても、令和2年度はそういう
検討期間であったということから、こちらに

記載のとおり、2か所ずつの工事ということにはなりませんでしたが、今後につきましては、やはり地域の防災拠点として重要な役割を果たす分団器具置場でございますので一もちろん、厳しい予算状況であるとか時々々の優先事項もございますけれども、基本的には年2か所ということで、今後も計画的に進めていきたいと考えております。

豊岡委員

どうもありがとうございます。

老築化や地域住民の方の変化によって場所を移転する必要があるなどといったところも出てきていると思いますので、また前向きに御検討いただきたいと思います。

あと、分団のポンプ車は八十数台あると思うのですけれども、どれぐらいの割合で更新されているのか教えてください。

警防課長

分団での車両は、今、委員がおっしゃったとおり、88台保有しております、毎年3台ずつの計画で更新を行っております。

令和2年度に更新した車両3台の使用期間につきましては、25年経過したものが2台、27年経過したものが1台となっております。

豊岡委員

なかなか更新の順番が回ってこなくて、ポン

プの吸水力が低下しやすいとか、問題が起きているものもあると聞いているものですから、また早急に対応していただきたいと思います。

消防局長

昨年、岡部委員の質問の中でも1回お答えさせていただきましたのですが、ポンプ車の性能につきましては、基本的に国で定めております規格を満たしているのかということで毎年、全車両の点検をしております。その中で、しっかりと規格に合ったポンプ性能を維持しているかということは確認しております。

あと、点検につきましては、分団の方が使用前・使用後に毎回行い、さらに、車検や6か月点検を確実に行うという形でやっております。

大体計画を立てて3台ずつ更新しているのですがけれども、状況によってはどうしても車両の傷みが出てくる場合もありますので、そのときは順番を変えて、もともとの計画を変更して優先順位を上げて、分団活動に支障が出ないように計画しております。

豊岡委員

更新が必要な車両について、幾つか耳に入っていますので、よろしくお願いします。

分科会長

ほかにはないようですので、これをもって質疑

を終結いたします。

これより、認定第1号中消防局所管分の意見の表明を行います。

意見の表明はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

分科会長

意見の表明なしと認めます。

以上で、消防局所管分の決算審査を終了いたします。

消防局の皆さんは退室願います。

この後、上下水道局所管分に入ります。

説明員を交代いたしますので、しばらくお待ちください。

〔消防局退室／上下水道局入室〕

分科会長

これより、上下水道局所管分の決算審査を行います。

議案第187号 令和2年度富山市水道事業会計未処分利益剰余金の処分の件、

議案第188号 令和2年度富山市工業用水道事業会計未処分利益剰余金の処分の件、

議案第189号 令和2年度富山市公共下水道事業会計未処分利益剰余金の処分の件、

認定第18号 令和2年度富山市水道事業会

計決算、
認定第19号 令和2年度富山市工業用水道
事業会計決算、
認定第20号 令和2年度富山市公共下水道
事業会計決算、
以上6件を一括議題といたします。
これより、当局の説明を求めます。

上下水道局長 〔挨拶〕

上下水道局次長 〔決算概要及び委員会資料により説明〕

分科会長 これより、質疑に入ります。
質疑はありませんか。

豊岡委員 決算概要4ページの公共下水道事業の成果目標に關しまして、3つとも達成しており、順調であるとうかがわれます。
そのうち、一番下の水洗化率については、決算概要及び委員会資料のいずれも5ページに記載のあるとおり、下水道普及促進活動の強化によるものだと思われませんが、令和2年度末時点の未接続戸数のうち接続見込みが高いと思われる世帯はどれぐらいあると思っておられるのか教えていただきたいです。

給排水サービス課長 接続見込みが高い世帯につきましては、過去のアンケートや戸別訪問で、5年以内に接続の意思があると回答した世帯であり、令和2年度末時点で約500件であります。これは、未接続件数約5,000件のうち、約10%になります。

また、「経済的に困難」や「浄化槽設置済み」などの理由により接続見込みが低い世帯、約4,500件につきましても、引き続き、啓発チラシの配布、「広報とやま」による周知、経済的負担を軽減する水洗便所等改造資金貸付制度のPRにも努め、下水道接続の必要性を粘り強く働きかけてまいりたいと考えております。

豊岡委員 衛生上、やっぱり下水道に入ったほうがいいと思いますので、努力をよろしくお願いします。

では、今後の見込みについてはどう考えているのでしょうか。

給排水サービス課長 水洗化率につきましては、令和2年度末では96.3%であり、今年度末には、第2次富山市上下水道中長期ビジョンに掲げている令和8年度の目標数値96.4%を達成する予定であります。

今後の水洗化率の見込みにつきましては、5年以内に接続の意思があると回答した世帯約500件が接続されれば、水洗化率は0.4ポイント上昇し、96.8%になる予定であります。

今後とも、接続見込みや未接続理由に応じて効果的・効率的な普及活動に取り組み、水洗化率の向上に努めてまいりたいと考えております。

豊岡委員

よろしく申し上げます。

引き続き、決算概要11ページの中に、危機管理体制の強化という項目がございます。こちらの中で、下水道管の管口耐震化と記載し説明されておりますが、その対策が必要な施設はどんなふうに決めておられるのか、また、令和2年度末時点の下水道管の耐震化の進捗状況を教えてください。

下水道課長

今ほどの、既設の下水道管で地震対策が必要となるものにつきましては、下水道管の材質及び形状、また地下水などの情報を基に、平成28年度に発生した熊本地震のような大規模な地震を想定して計算を行い、耐震性能が満足していないと判定された施設を対象にしております。その対策としては、液状化対策

であるマンホールの浮上防止、また、マンホールと下水道管の接合部分を補強する管口耐震化を実施しているところであります。

本市では、平成25年度より、下水処理を行う上で機能上重要とされている既設下水道管の耐震化というものを進めており、令和2年度末の耐震化率は41.95%となっております。また、耐震化着手前の平成24年度末の耐震化率は33.3%であったことから、この8年間で耐震化率は約9ポイント上昇しております。

このように、着実に耐震化が進んでいることから、今後も自然災害に対して強靱な施設の整備に向け、取組を推進してまいりたいと考えております。

豊岡委員 耐震化率が41.95%になったら、熊本地震ぐらいの規模の地震であれば、下水道管の破損等は起きないだろうと考えておられますか。

下水道課長 そうですね。下水道管は全体で2,700キロメートルほどあるのですけれども、そのうち、例えば処理場に直結する幹線であるとか川や鉄道の下を通っているような管、それから、緊急輸送路などに埋設されている管を重

要な管と位置づけておりまして、約566キロメートルほどあるのです。

令和2年度末は耐震化率が41.95%ということで、重要な管が耐震化されていれば、今ほど言った大規模な地震に対して耐震性能を持っていると考えております。

豊岡委員 主要幹線はそれだけで大丈夫ということですか。

下水道課長 そうです。

豊岡委員 あと、家庭向けのいろいろな管がありますがけれども、そちらは今後、徐々に耐震化していくのでしょうか。

下水道課長 新しい管につきましては、今、リブ管というひだがついたような下水道管を平成11年ぐらいから入れていまして、その管自体が耐震性能をもう持っている。昔のヒューム管など一要は塩ビ管ですねーそういったものが耐震性能を満たさないということでもあります。

豊岡委員 では、引き続きよろしく申し上げます。
決算概要14ページなのですけれども、西宮地内の新川雨水幹線が完成したということで、

浸水被害が軽減されたと思います。排水能力が不足していたものが改善されたと聞いておりますが、事業の完成によって今後どのように改善されていきそうなのか、予測を教えてください。

下水道課長 今ほどの新川雨水幹線の整備を行いました西宮地内におきましては、降った雨については、既設の排水路を流れて、これまでも富山湾へ放流されておりました。

御存じのとおり、既設の排水路では、富山湾の潮位の影響を受けて、常に水が滞留しているような状況であって、排水路の機能を十分に活用できないことから、豪雨時に水路の流下能力が不足しまして、浸水被害が発生していたというところであります。

そのため、赤色で図示されているような、排水能力を補うバイパス水路の整備に平成30年度から着手してきたところであり、令和2年度には概ね整備を完了したところであります。

このバイパス水路は、先ほどの潮位の影響も考慮した水路断面で整備していることから、豪雨時にも流下能力を確保することが可能であるため、浸水被害の軽減に期待できるものと考えております。

豊岡委員 この東側で印がついているところには魚屋さんもございまして、増水すると衛生上よくないものですから、効果を期待したいと思います。

谷口委員 決算概要5ページの「とやまの水」のPR事業について、これは10年連続受賞を節目として次年度以降出品を行わない予定ということです。10年の節目でやめても、そういうものだろうなとは思いますが、せっかく10年やってきたこの実績を今後どう生かしていくつもりなのか、何か考えを持ってもらえるのでしょうか。

経営企画課長 上下水道局では、モンドセレクションへの出品は10年間ということなのですが、今後も折に触れていろいろなところでPRしていきたいとは考えています。今までの実績だと、例えばGo To トラベル事業がございましたけれども、あのときに旅館に配っておりました。あと、おわらの会場や市内の観光ルートー富岩運河でも配ったりしたのですが、残念なことに、この2年ばかり新型コロナウイルス感染症の影響で、PRする機会が失われている状況でございまして、感染の収束が今後どうなっていくのかということを見極め

ながら、新しい手を考えていかなければいけないと考えています。

一方、やはり人口減少ということで一今年はたまたま雪が多く降りましたのでよかったですけれども一水道の料金収入というものは今後落ちていく傾向にある、これはもう疑いようのないことでございます。その中で、ほとんど収益性のないペットボトル事業に今後多額の投資をしていくのが適当かどうか。少しでも削れるところは節約して、料金改定という、赤字が起きないようにしていくための経営の取組も必要と考えておりますので、そのあたりのバランスで今後どうしていくのかということを考えていこうと思っております。

谷口委員

ペットボトル事業だけ取るとそういうことになってくると思いますが、恐らく10年間この事業をやり続けてきたのは「とやまの水」をPRするという目的だったと思うのですね。別にペットボトルの水を売りたいくてやってきたわけではないと思うのです。だから、この事業を10年間やってきて、富山の水はおいしくてきれいなのだよと言ってきたのであれば、せっかくやってきたものをここで終わらせずに何らかの形で続けていかないと一10

年間が無駄とまでは言わないけれども、そうならないような取組をしっかりと考えていてほしいなということです。これは別にペットボトルに限ったことではないと思うので。

上下水道局長 全国的に見て、ペットボトル事業、特にモンドセレクションへの出品に関しては、富山市は結構早めに行ってきて、10年を迎えたということも全国であまりない事例だと思っています。

その中で、今、いろいろなメディアや通信網が発達してきておりまして、全国的にもPRの仕方が変わってきておりますので、今後そういうものを見ながら一例えば東京ではペットボトルではなくて、給水スタンドを設置して、ただで水を入れて持ち歩くということをやっていますので、いろいろな事例を見ながら、PRしていけるような取組を今後また検討してまいりたいと考えております。

谷口委員 10年連続受賞しましたという言葉はずっと使っていけるものなのですか。もう使ったら駄目なものなのですか。

経営企画課長 別に使っていけばいいと思います。

谷口委員　　そうであれば、10年連続で賞を取りましたということのを大いにPRしていけばいいのかなと思います—今後も続けてモンドセレクションに出品しようという意味合いで言っているわけではないですよ。

もう一つ、工業用水道事業会計についてですが、給水先が三菱ケミカル株式会社富山事業所ほか17事業所とあり、要は18事業所あると思うのだけれども、この1社だけ取り上げてあるということは、ここが一番水量が大きいという考え方でいいのですか。

上下水道局長　　そうでございます。

横野委員　　今、経営企画課長の答弁で、料金改定の話を少し言われましたが、今から3年前に、当時の局長だった方が、平成33年ぐらいには料金改定の必要性も検討しなければならないと言っていたことを記憶しているのですけれども、今の決算状況からいって、今後の料金の見直しについて、方向性というものは何かありますか。

今の収支決算からいったら非常に順調であるようだけれども、耐震化のことや、先般、和歌山県で起きたような水管橋の破損といった突然の事故が起きたときの対応など、いろいろ

ろなことを考えたときに、現在の状況における料金改定の方向性については、令和2年度決算を基にするとどういうふうに考えておられますか。

上下水道局長 上下水道事業につきましては、平成29年から令和8年までの10年間を計画期間としております第2次富山市上下水道事業中長期ビジョンに基づいて、計画的に事業を実施しているところであります。

この計画では、人口減少に伴います料金収入の減少などを踏まえ、施設の長寿命化や老朽化対策、耐震化を図ることとしておりまして、期間内は黒字が維持できる投資財政計画になっております。計画においては、料金改定を見込んでいないところであります。

また、今年度は、この計画の策定から5年が経過いたしますので、これまでの実績を踏まえて財政シミュレーションを行っているところですが、試算といたしましては、実績や今後の見通しについては計画から大きく乖離していないことが見込まれますので、今後につきましても、計画に基づき健全な財政状態を維持していくよう努めてまいりたいと考えております。

今ほどお話がありましたように、現計画に反

映されていない流杉浄水場や浜黒崎浄化センターの改築というものは、将来的には必ずしなくてはならないことになっております。その改築計画について検討しておりまして、本会議でも答弁させていただいたように、浜黒崎浄化センターにつきましては、劣化部分の補強をすることで約30年は延命化を図ろうと。流杉浄水場につきましては、令和17年度をめどに改築をしていこうということについて検討してまいりましたので、現計画については、これらのことによって変更することは考えておりません。

柏委員

委員会資料4ページに記載の工業用水道事業会計の処置状況において、将来必要となる施設の大規模な改修、改築に向け、契約企業への意向調査の結果に基づき、令和2年度に浄水方法や施設規模についての検討を行ったとの記載がありますが、その内容についてお聞かせください。

水道課長

本市の工業用水道施設は、昭和34年に供給を開始してから50年以上経過している施設となっております。その施設につきましては、先ほど次長から説明がありましたとおり、現状は健全性を維持

しながら運転を行っておりますが、今ほど言ったように、50年以上経過していることから、将来的には耐震化を含む大規模な改築、更新が必要となります。そのため、今ほど局長が述べましたとおり、更新計画の概要について、第2次富山市上下水道事業中長期ビジョンの前期期間である令和3年度末までに方針の概要を取りまとめるということにしております。

具体的に、令和2年度におきましては、現在契約しております18事業所の将来需要―将来の水需要や求められる水質等について時間をかけて協議・検討してきたものを基に、現有施設の単純更新、あるいは新たに水源を確保することなどによる新規の整備等について実現可能な基本構想を策定しております。

それを基に、最終的にはユーザーの合意を得た改築ということを目指していかなければならないことから、令和2年度につきましては、浄水処理方法を含む必要な施設、また設備等について理解を求めるための絞り込み、あるいは複数の検討を実施してきているということが検討を行った令和2年度の実績ということになります。

高原委員

水道事業会計についてお聞きします。

決算概要 1 ページに、在宅時間の増加に伴う家事用の使用水量の増加と記載がありますが、決算審査意見書の 14 ページ、第 8 表を見ると、一般用の中でも、主に家事用である口径 13 ミリメートルと口径 20 ミリメートルの使用水量が増加しているほか、口径 200 ミリメートルの使用水量も増加しております。この理由についてお聞かせください。

料金課長

口径 200 ミリメートル水栓の使用水量増加の主な原因といたしましては、水道水を消雪として使用されたことによるものでございます。該当の事業所におかれましては、構内道路や施設などの消雪は全て水道水で賄っておられまして、冬期間の 1 月、2 月を使用期間とする 3 月調定で比較しますと、令和元年度は使用水量が約 4 万立米でございましたが、降雪がありました令和 2 年度につきましては、同じ時期の使用水量が 8 万 8,000 立米になっておりました。また、調定額におきまして、900 万円から 2,000 万円へと倍増しております。

このことによりまして、年度全体では、使用水量、調定額ともに、前年比 22% を超える大幅な増加となったものでございます。

高原委員 そういう消雪に使う部分であれば割り引くなどといったことは特にはないのでしょうか。

料金課長 消雪として御使用の部分におきましては、水道料金については特段の割引の制度はございませんが、下水道使用料につきましては、下水道に接続されている事業者でありまして下水道に流されておられませんので、消雪で流した量が分かる子メーターを独自に設置していただいて、その量を報告していただければ、下水道使用料については、その分を減額させていただきます。

高原委員 続きまして、決算審査意見書の7ページでは予算と決算の比較がされており、その中で、水道加入金が予算額と比較して約6,700万円の減と記載されております。
令和2年度の水道加入金が予算額と比べて減少した理由についてお聞かせください。

給排水サービス課長 まず、水道加入金が予算額と比較して減となりましたのは、令和元年10月の消費増税の影響によるものであります。
前回、消費増税があった平成26年度前後において、顕著な加入件数の増減が見られなかったため、令和2年度の予算積算については、

駆け込み需要による加入件数の増減は見込まず、過去5年間の申請件数の平均で積算した結果によるものであります。

次に、決算額が前年度比較で減となりましたのは、平成30年度において消費増税前に住宅購入の駆け込み需要が生じ、その反動で、消費増税後の令和元年下半期以降、加入件数が想定以上に落ち込んだことによるものであります。加えて、コロナ禍において、先行きの不透明感から住宅着工件数が停滞し、加入件数に影響を及ぼしたことによるものであります。

なお、平成28年度から令和2年度の5か年のトータルで見ますと、予算額に対して決算額は約2,000万円上回っております。

高原委員

分かりました。

次に、決算概要3ページに記載の成果目標についてお尋ねします。

全水道管路の耐震化率及び給水拠点整備達成率は、目標数値を僅かに下回ったものの、配水幹線の耐震化率は目標値を達成し、全体として概ね順調に予算が執行できていると考えておりますが、一方で、決算審査意見書の10ページでは、建設改良費の配水施設費で約6億3,000万円の不用額が生じたと記載

されております。

この理由や内容についてお聞かせください。

水道課長

まず、建設改良費における配水施設費は、主に配水管—水道管ですね—そういったものをはじめとする水道施設の設置、増設あるいは更新等の工事に要する費用が主な費用となっております。今ほどおっしゃった不用額約6億3,000万円の内訳につきましては、まず、執行を要しなかった不用額が約2億8,000万円、翌年度へ繰り越した繰越額が約3億5,000万円、合わせて約6億3,000万円となっております。

執行を要しなかった不用額の約2億8,000万円の内訳につきましては、1つには、下水道工事における開削工事から、非開削の管更生工法などへの工法変更によって、水道管の移設補償工事が発生しなかったことによる工事請負費の不用額が約1億4,300万円。2つ目に、個人住宅の新築等に伴う水道の新たな需要に対応するために新設整備する整備費用について、実際にそういった需要が生まれなかったことによるもので、先ほどと同様に工事請負費の不用額として7,100万円余り。

3つ目には、これら建設工事の工事請負費等

の契約に係る請負差金に伴う不用額が約4,900万円余り。

最後、4つ目に、配水管等の布設工事に伴いまして、例えば日本海ガスでありますとか、その他の占用者の占用物件が水道工事の支障になるといった、市が主として依頼する移設補償が発生しなかったことによる不用額が約1,700万円、合わせて約2億8,000万円余りということになっております。

翌年度へ繰り越しました3億5,000万円につきましては、その大半が水道管—配水管の更新工事の繰越しとなっているものです。その理由につきましては、今年1月の記録的な大雪に伴う工事区域の除排雪、生活道路確保のための除排雪等を優先するため、一時的に工事を中止させていただいたことに対応するために工事期間の延長が必要となったことから繰越しを行ったもので、工事費で3億4,100万円余り—約3億5,000万円の主な内訳ということになります。

高原委員

最後に、決算概要7ページ、水道事業会計における令和2年度の主な資本投資として、流杉浄水場の浸水対策工事を行ったと記載されていますが、その対策工事の内容についてお聞かせください。

水道課長

本市の総配水量の74%を供給している、富山市の水道施設にとっては最も重要な基幹浄水施設であります流杉浄水場につきましては、これまでに、平成21年に供用した大規模改築一新流杉浄水場となっておりますけれども一これらの大規模な改築工事、あるいは、その他災害に対応するための自家発電設備の整備等、施設の機能充実、耐震化を含む強化を図ってきたところでありますが、平成30年12月に国が示しました防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策において、今ほど申し上げました耐震化あるいは経年対策等に加えて、流杉浄水場の浸水被害に対する対策も講じるように施設の強化を求められたことから、令和2年度に、本市最新の洪水ハザードマップを基に被害想定をした浸水対策のための壁一地下鉄等の入り口に立っているような画像をニュース等で見られるかと思えますけれども、いわゆる水が入らないように壁を立てるような板ですね一そういった浸水壁の工事を令和2年度に実施しております。

横野委員

決算概要8ページの老朽給水管（鉛給水管）の更新のことについて、鉛管が危険だと言われてから、もう大分年数がたっているのだけれども、今回535件更新したと書いてあり

ます。

鉛管はあとどれだけ残っているのですか。

給排水サービス課長 鉛管につきましては、令和3年4月現在で、前年度から535件減の3万5,000件余り残っております。市全体のうち16.5%を占めております。

これらの対策としましては、老朽化した配水管の布設替えに合わせて、鉛管の取替え、漏水調査による漏水鉛管の取替え、公共工事に伴う鉛管の取替えということで、少しでも鉛管の改修に向けて鋭意進めているという状況です。

高原委員 浸水対策ということで、松川の雨水貯留施設についてお聞きします。

令和2年度の利用状況や活用状況について教えてください。

上下水道施設管理センター所長 令和2年度の松川貯留管の、利用状況といたしますか流入状況ですけれども、25回流入しております。

多いときで約2割から3割程度しか入っておらず、幸いにも満水になったことは一度もありません。

そういったことから、まちなかでの浸水被害

等の報告は、昨年度は1件も入っておりません。

分科会長 ほかにないようですので、これをもって質疑を終結いたします。

これより、議案第187号から議案第189号まで及び認定第18号から認定第20号まで、以上6件を一括して意見の表明を行います。

意見の表明はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

分科会長 意見の表明なしと認めます。

以上で、上下水道局所管分の決算審査を終了いたします。

午前11時12分 休憩

~~~~~

午前11時16分 再開

分科会長      ただいまから、建設分科会を再開いたします。これより、建設部所管分の決算審査を行います。

認定第1号 令和2年度富山市一般会計歳入歳出決算中、建設部所管分、

認定第17号 令和2年度富山市賃貸住宅・  
店舗事業特別会計歳入歳出決算、  
以上2件を一括議題といたします。  
これより、当局の説明を求めます。

建設部長           〔挨拶〕

建設部次長       〔主要施策成果報告書及び委員会資料により  
説明〕

分科会長           これより、質疑に入ります。  
質疑はありませんか。

横野委員           委員会資料2ページのサンライト事業で、今、  
街灯をLEDに変えたことによって光熱水費  
が1,200万円減額し、予算が余ったとい  
う話でした。事業が完成すれば、例えば10  
年で工事費の元が取れる、電気料が下がる  
という話だったけれども、1,200万円とい  
うのは今回初めて出る数字ですか。

建設部参事       今、委員のおっしゃる1,200万円という  
(道路河川管理担当) 数字は、電気代が下がったことで、思ったよ  
りも当初予算額のほうが多く出過ぎていたた  
め差額が出たということになります。

横野委員

サンライト事業で結果的に電気料が安上がっていくということについては、例えば、今年度はもうこれだけの数の街灯をLEDに変えたわけだから、当初予算で毎年減額していった数字だったのか。今改めて、決算で電気料が下がりましたと言われると、LEDに変えたことによる効果がどういう形で表れたのかということをお聞きしたいのです。

1, 200万円減った理由は当初予算の見込みをちょっと余分に見ていた分が減っただけという決算報告だと思うのですけれども、LED化の効果というものは1, 200万円だけだったのかなという気がしたものだから、ちょっと聞いたのです。

建設部参事  
(道路河川管理担当)

今、委員がおっしゃったように、約5万7,000灯近くの街灯をLED化したことによって、光熱水費—電気代がどんどん下がってきています。

一遍に下がってきて—実際のところ、光熱水費は平成30年度から令和元年度、令和2年度と、徐々に下がってきています。特に平成30年度、この事業に取り組んで街灯を変えたときには、光熱水費が40%近く下がっています。その効果がどんどん出始めて、令和元年度から令和2年度には、さらに15%近



く下がってきていると。

今の状況は下げ止まりといたしますか、ある程度の効果水準に達していきまして、これだけ落ちるだろうと当初予算で見込んでいたのですが、それよりも効果が出たということで不用額が発生したということです。

分科会長           ほかにないようですので、これをもって質疑を終結いたします。

これより、認定第1号中建設部所管分、認定第17号、以上2件を一括して意見の表明を行います。

意見の表明はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

分科会長           意見の表明なしと認めます。

以上で、建設部所管分の決算審査を終了いたします。

それでは、暫時休憩いたします。

午前 11時38分   休憩

~~~~~

午後 1時08分 再開

分科会長 ただいまから、建設分科会を再開いたします。

これより、活力都市創造部所管分の決算審査を行います。

認定第1号 令和2年度富山市一般会計歳入歳出決算中、活力都市創造部所管分、

認定第16号 令和2年度富山市軌道整備事業特別会計歳入歳出決算、

以上2件を一括議題といたします。

これより、当局の説明を求めます。

活力都市創造部長 〔挨拶〕

活力都市創造部次長 〔主要施策成果報告書及び委員会資料により説明〕

分科会長 これより、質疑に入ります。
質疑はありませんか。

岡部委員 主要施策成果報告書の248ページですが、まちなか再生推進事業費の予算額1億8,298万円に対して、執行率が0.3%ということであります。実際、今の説明では、中央通りD北地区市街地再開発事業において、事業計画作成の支援を行ったという表現があったのですが、実際、予算執行はほぼゼロなわけですし、具体的にどうなっているのかが分からないのでお聞かせ願います。

都市再生整備課長

中央通りD北地区に関するこの1億8,200万円余りの予算につきましては、再開発組合が本組合の認可を受けて、正式な本組合として設立後に行われる、組合の土地の調査費や建物の設計費、権利変換計画に係る費用の一部を補助するというものでございました。先ほどの説明のとおり、本組合の設立までに、計画の策定など、コロナ禍において不測の時間を要してしまったということで、本組合の設立が少し遅れてしまったということでございます。それによって、この費用につきましては、残念ながら不用額とさせていただいたものでございます。

ただ、先ほども説明があったように、今年3月に本組合を設立しておりまして、いよいよ本格的に事業として具体的な事務に入っております。

実は今年度、この1億8,200万円と同額の予算をいただいております。本組合はその予算を活用されて、今ほど申し上げました建物の実施設計ですとか土地建物の調査を既に開始されております。その作業については今現在、粛々と進めておられるところでございます。

先ほど御指摘いただいた、事業計画の支援ということでございましたけれども、支援とい

うのは、お金という面での支援もございませし、事業計画の策定に当たって、県、国への問合せですとか質疑応答、それから事業スケジュールなどについて、これまでの再開発事業の経験なども踏まえまして、私どもから助言あるいは指導というような立場での支援を行っているということで、支援という言葉を使わせていただいたものでございます。執行はほぼゼロでございますけれども、担当の私どもとしてはそのような作業をやっていたということです。

あと、予算額に関しては、今年度も同額の予算をいただいておりますので、組合のほうでは粛々と作業を進めておられるところでございます。

岡部委員

具体的な中身をもう少し一表記が前年と全く同じ文言になっているので、そこはやっぱりちゃんと説明できるような中身にしてもらいたいということと、令和2年度の当初予算についても、前年の繰越額とそのまま同額なわけです。また同じ額の予算を新規で計上したということですが、今年度は繰越しにしなかったのは何か意味があったのですか。

都市再生整備課長

実はこの1億8,200万円につきましては、

令和元年度から令和2年度へ繰り越した費用でございます。

残念ながら、先ほど申したような理由でもって執行に至らなかったということですが、さらなる繰越しはできないということでありまして、やむなく不用額とさせていただいたものでございます。

岡部委員

分かりました。

もう1点、主要施策成果報告書249ページの中心市街地活性化事業費ですが、翌年度への繰越しも若干ありますけれども、執行率は92.8%ということですが、ただ、公共交通のおでかけ定期券関係でいうと、延べ利用者が前年度の64%ぐらいになっているわけですが—これは新型コロナウイルス感染症の関係もあってのことだと思えますけれども、非常に減っているという中で、おでかけバス事業など、おでかけ定期券事業総額としてはそんなに変わっていないというのは、どういうことからこうなっているのか教えてください。

中心市街地
活性化推進課長

こちらの予算につきまして、まずバスと電車につきましては、運行事業者と協議いたしまして定額となっております。ライトレール、路面電車及びフィーダーバスにつきましては、

平成30年10月から令和元年9月の前年度1年間の実績を基に予算要求しておりますので、不用額が生じておりません。

委託料は実績に応じて払っておりますので、執行率が100%となっております。

岡部委員 おでかけ路面電車事業の関係での補助が平成30年度は約1億8,000万円で、次年度は倍ぐらいになって、令和2年度はまた減額になっていて、年度ごとに随分差があります。これは何か特に理由があるのですか。

中心市街地活性化推進課長 路面電車はあくまで全部実績で補助しておりますので、その実績が変動すれば予算額が変わっていく形になります。

活力都市創造部長 路面電車につきましては、御存じのとおり、昨年に南北接続を行っております。
中心市街地活性化推進課長が申しましたように、過去からの実績がしっかりあるものについては、運行事業者と協議して定額にしましょうということだったのですけれども、南北接続によってどれだけ利用者が伸びるかということが、富山地方鉄道にも富山市にもまだ分からなかったもので、しばらくは実績ベースで補助することとしました。利用者数がある

程度見えてきた段階では、ほかと同じように定額にしたいというような方向で富山地方鉄道と協議しております。

岡部委員

分かりました。

では、引き続き主要施策成果報告書の同じページの新規出店サポート事業について、前年に比べて決算額が随分下がっていると思いますが、これもやっぱり新型コロナウイルス感染症の影響だったのかどうなのかだけ教えていただければと思います。

中心市街地
活性化推進課長

昨年度につきましては、新規改装申請は1件しかございませんでした。

今年度につきましては、本日現在なのですが、申請が4件来ておりますので、昨年度はやっぱりどうしても、出店しようにもなかなか新型コロナウイルス感染症の関係で、その後の経営状況等も心配だったものですから、その影響で少なかったのではないかと推測しております。

岡部委員

分かりました。

新型コロナウイルス感染症の影響であればいいのです。この事業そのものに魅力があるのかないのかということもやはり検討する必要

が……。

今年度それだけの数の申請があるということであれば、引き続き事業はやっていくべきだと思っています。

分科会長

ほかにはないようですので、これをもって質疑を終結いたします。

これより、認定第1号中活力都市創造部所管分、認定第16号、以上2件を一括して意見の表明を行います。

意見の表明はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

分科会長

意見の表明なしと認めます。

以上で、活力都市創造部所管分の決算審査を終了いたします。

これで、当分科会に送付されました全案件の審査は終了いたしました。

委員各位に御相談申し上げます。

分科会長報告については、正・副分科会長に御一任願いたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

分科会長 それでは、そのように取り計らいます。
 これをもって、予算決算委員会建設分科会を
 閉会いたします。

令和3年10月13日
予算決算委員会建設分科会記録署名

分科会長 竹 田 勝

署名委員 横 野 昭

署名委員 金 厚 有 豊